

令和7年度第1回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

（令和7年6月27日（金）15時00分～17時00分）

（滝沢市市役所2階201・202会議室）

（進行）事務局

ただいまから令和7年度第1回滝沢市総合計画審議会を開会いたします。本日の出席は20人中15人であり、過半数を満たしております。よって、滝沢市総合計画審議会条例第5条第2項の規定により会議が成立することを御報告いたします。それでは、審議会の開会にあたり、滝沢市長の武田哲より御挨拶を申し上げます。

（挨拶）市長

本日は公私ともに御多忙のところ、審議会に御参加いただきまして誠にありがとうございます。滝沢市PTA連絡協議会から御推薦を頂いた藤倉様には、審議会委員をお引き受けいただき、深く感謝申し上げます。藤倉様にはこれまでの御経験と御見識を生かして滝沢市のより良い発展のために様々な角度から御提言をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の令和7年度第1回滝沢市総合計画審議会の議事は、次第にございますとおり、令和7年度市長方針及び各政策方針についてであります。私の市長方針と各政策方針につきまして、皆様から様々な御意見や御提言を賜り、それを市政に活かすことで、市民の皆様にとってより良い滝沢市を築いてまいりたいと思っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（進行）事務局

ありがとうございました。次に、本日参加されております委員の皆様の御紹介につきましては、時間の都合上、お手元の名簿による御紹介とさせていただきますことを御容赦ください。なお、先ほど市長からもありましたとおり、今年度、滝沢市PTA連絡協議会の会長交代に伴いまして、新たに滝沢市PTA連絡協議会の方から御推薦を頂きました、藤倉様を総合計画審議会委員に委嘱しておりますことをお知らせいたします。

市側の出席者につきましては、武田市長、岡田副市長、太田教育長をはじめ、お手元の名簿のとおりでございます。なお、健康こども部長は所用により欠席のため健康づくり課長が、また、福祉部長も同様に欠席のため地域福祉課長が、それぞれ代理で出席しております。本日の議事は、「令和7年度市長方針及び各政策方針について」となります。それでは早速議事に入らせていただきます。ここからの進行につきましては、総合計画審議会の丸山会長をお願いしたいと思います。

（進行）会長

本日もよろしくお願いいたします。それでは早速議事に入ります。令和7年度市長方針及び各政策方針について、事務局から説明をお願いします。

（説明）事務局

それでは、議事「令和7年度市長方針及び各政策方針について」を御説明いたします。まず皆様、お手元に資料1と資料2を御準備ください。令和7年度市長方針については市長より資料1に基づきまして御説明いたします。

令和7年度第1回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

なお、令和7年度各政策方針につきましては、審議時間を十分に確保するため資料を事前配布しており、内容を御確認いただいていることから、本日の説明については割愛をさせていただきます。それでは市長、よろしくお願いいたします。

（説明）市長

それでは、説明させていただきます。まず、この文章の冒頭に「人口減少」「少子高齢化」という言葉が出てきます。市長に就任してから、毎月岩手県から発表される県内で1年間に生まれた子どもの数をみておりますが、その数値を見るたびに、本当に驚きます。令和5年度は、1年間に生まれた子どもの数が1桁の自治体が3つ、100人以下の自治体が23自治体あり、滝沢市は出生人数が上から6番目でした。

令和6年度を見ると、県内に自治体が33あるうち、出生数が1桁のところは4自治体でした。100人以下の自治体は少し改善し、前の年が23だったのが21になりました。しかし、滝沢市も令和6年度は出生数が300人を切ってしまいました。この状況を踏まえ、我々も自分たちの自治体だけでなく、周りの自治体のことまで意識しながら、滝沢市がどのような要素を持っていて、市民の皆様はどう活力をもたらし、選んでいただけるような市になっていくか、そこが一番大事だと考えております。

第2次滝沢市総合計画は2年目に入りました。1年目は市民の皆様に取り組をしっかりと説明し、覚えていただく。2年目は、この取組を定着させながら新たな展開を目指すという意識でこの市長方針を作成させて頂きました。

市長方針の1つ目は市民対話及び市民参画です。自治会の役員や各種団体の役員になる方が減ってきている中で、自分たちの地域や団体の活力をどう作っていくか、この部分を行政と市民が一体となって考えていかなければなりません。市民対話と市民参画を意識して、令和7年度の総合計画について各部長に指示を出したところです。地域づくり活動をサポートしながら、社会的包摂性の高い地域社会を作っていく、すなわち優しさに包まれた滝沢市をしっかりと実現していくことを目指しました。私自身もかしこまらずに対話することをずっと続けてきましたので、これからも様々なところに出向いてかしこまらない対話を続けていきたいと考えております。

2つ目は、効果的で効率的な行政運営の推進です。人口減少や物価高騰など様々な困難の中で各種事業を進めていく上では、デジタル技術や外部リソースの活用や、各種事業の見直しなども考えなければなりません。並行して、時代とともに大きく変わり多様化している市民の意見にどう向き合うか、そこもしっかりと考えていきたいと思えます。

3つ目は、活力ある地域づくりに向けた取り組みです。進学、就職、結婚、出産、子育て、子どもの独立といった人生の様々な節目において、「滝沢市に暮らしてよかった」「滝沢市で暮らしたい」と思っただけのような市になっていかなければならないと考えております。

この点を踏まえながら、令和7年度の子育て関連の予算を組ませて頂きました。障がいのあるお子さんを持つ家庭の医療費無償化や所得制限の撤廃など、様々な事情の皆様を支援することで「滝沢市に暮らしてよかった」と思ってもらえるような環境づくりを目指しています。

令和7年度第1回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

また、市に対する愛着をどう作っていくかという点も1つの課題だと考えています。滝沢市にはチャグチャグ馬コや鷹巣子市、山車祭りなど様々なお祭りがあります。先日開催されたチャグチャグ馬コは18万9000人と、過去3番目の来場者数でした。新採用や採用2年目の職員にもチャグチャグ馬コの運営に参加してもらっていますが、その感想として「多くの人出があり、多くの人が笑顔になるこの祭りを維持・継承していかなければならない」と感じたそうです。職員からその話を聞き、本当に残すべき祭りだという気持ちを新たにしたところであります。チャグチャグ馬コを「滝沢市にいつか帰りたい」「滝沢市に恩返しをしたい」と思っていただけなきっかけとなる祭りにできればと感じております。

これは滝沢市だけではできないので、盛岡市や矢巾町と一緒にチャグチャグ馬コを盛り上げてまいりたいと考えております。

4つ目は、5つの重要な視点である「つながる滝沢」「こどもまんなか滝沢」「いきいき滝沢」「まなぶ滝沢」「はたらく滝沢」に基づく取組です。この5つの視点をどうしたら成し遂げられるか、作り上げることができるかを皆で話し合い、皆様からいただいた御意見をしっかりと生かし、第2次滝沢市総合計画は作成されています。令和7年度市長方針においては、この5つの視点に関する事業に取組み、第2次滝沢市総合計画で目指す状態に近づけることとしております。

市長方針に関する説明は以上になります。

（進行）会長

ありがとうございました。それでは委員の皆様から御質問、御意見をいただきたいと思います。先ほど説明がありました通り、各政策方針についての説明は議論を充実させるため割愛となりましたが、全ての部の部長、もしくは代理の方が出席しておりますので、市長方針及び各政策方針について、御発言をお願いいたします。

（意見・質問）委員

政策方針書の数値について質問します。資料2の1ページ目の右側の数字、政策に関連する指標の状況のところですが、数値が入っているところと入っていないところがあります。進捗状況の数値は、何を基にしているのか、また、入っていない部分についてはまだ進捗していないということなのか、お伺いしたいと思います。

また、資料2の3ページ目の予算関係の部分で単位が示されていませんが、この単位は千円単位でしょうか。

（進行）会長

資料の読み方についてですね、どうぞ御回答願います。

（回答）事務局

令和6年度から始まった第2期滝沢市総合計画前期基本計画でございますので、令和7年度は計画の2年目となります。方針につきましては毎年、当該計画の前年の秋に策定事務を進めることになっております。

令和6年度の計画や数値につきましては、現在令和6年度会計の締めが終わったことから、これから評価を行い、第2回の総合計画審議会で御説明する予定としております。

令和7年度第1回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

今、御質問のありました進捗率の数値については、本来まだこの計画書においては出さないルールとなっておりました。しかし各課で数値が確定している指標について、既にシステム上に入力している所があり、今回出すべきではない進捗率が出てしまっているというシステム的な不備でございます。大変申し訳ございません。

令和7年度政策方針書では進捗率が記載されていない状態が正常ですので、数値が記載されている部分につきましては修正をさせていただきたいと考えております。結論としては、令和7年度政策方針書において、進捗率は空欄が正しい状態です。また、数字の単位ですが、こちらは千円単位となります。

（進行）会長

念のため確認ですが、最後の進捗状況のところに、91.9%、96.6%、114.7%と記載されている部分は、本来ゼロという表記が正しいものだったが、担当課において数値を入力してしまっている部分があり、自動的に計算してしまったところがあるという理解でよろしいですか。

（回答）事務局

はい、そのとおりでございます。修正作業をさせていただきます。

（進行）会長

分かりました。では一番右側の進捗率の部分については、実際は評価前なので全て空欄だということですね。

（意見・質問）委員

次に、この計画書を読むと、2ページ目の下段に「この政策が令和7年度に特に力を入れて取り組む事（重点課題）」と記載されています。私の理解では、この部分は令和6年度の進捗状況の評価した上で、令和7年度はこのようなことに取り組んでいこうという意図で記載されているのだと思っています。つまり、令和6年度評価はこの計画作成時点では確定していないが、概ねその時点での評価を踏まえてこの部分を作成しているということでしょうか。

（回答）事務局

はい。委員がおっしゃった通りでございます。現在令和6年度の評価作業を進めております。政策方針書の数値や、重点課題の部分につきましても、この作業の中で評価し、公表されるということとなります。

（意見・質問）委員

確認ですが、2ページ目最後の重点課題のところ、これは令和6年度を振り返って、令和7年度書かれているはずなので、指標としての最終的な数値は出ていないけれども、令和6年度の取り組みを踏まえた上で令和7年度の重点課題を書いているという理解でよろしいですか。

（回答）事務局

はい、そのとおりです。

（進行）会長

では、以下の資料も同じように読んでいただくということをお願いします。どうぞ他に何かありますでしょうか？

（意見・質問）委員

資料2の17ページの（3）の政策を構成する施策及び関連する指標の状況の番号3と番号4の「生きる力を育む学校教育の充実」の目標値についてです。これが令和5年度の基準値から令和9年度までずっと同じ数値になっています。小学校も中学校もずっと同じ数値です。これは、小学生、中学生ともに課題の解決に向けて自分の考え、自分で取り組んでいく姿勢が現状で最大値であり、これ以上充実させる必要がないということでしょうか。この「生きる力を育む学校教育の充実」に反するような気がしますがいかがでしょうか。

（進行）会長

通常は上がっていくと考えられると思いますが、どうぞ御回答をお願いします。

（回答）教育次長

こちらの指標につきましては、学校教育指導課で取り組む義務教育の部分の指標となっております。この指標については、県教育委員会の方で目指す具体的な指標として設定しているものと同じものを指標として用いております。いわて県民計画の中のいわて幸福関連指標でも、目標値として明確に設定して取り組んでいるものでございます。

この指標は、毎年、小学校は6年生の春の時期、中学校は3年生の春の時期に行う全国学力・学習状況調査の質問市でとらえたものとなっております。毎年調査対象者が異なるため、目標値を据え置く形で設定しております。

また、基準値と達成目標値も県に倣って設定したところでございます。県でも滝沢市でも、平均して80%から83%くらいを平均値としております。中学校の方の目標値については少し高い目標値になっておりますが、これを下回らないように取り組んでいきたいということで、この目標値を毎年目指すという形で設定したものでございます。

（意見・質問）委員

そうするとこの目標値は上限値という理解でよろしいでしょうか。

（回答）教育次長

上限値というのではなく、あくまで目標値として毎年その目標値をクリアしたいということで設定をしております。

（進行）会長

80%から83%という数字も出ましたが、このくらいの数字を維持する。対象者は変わるけれども、常にこの数字を維持するということが目標だという理解でよろしいですか。

（回答）教育次長

はい、そのとおりです。

（進行）会長

よろしいですか。それでは他に何かありますでしょうか。はいどうぞ。

（意見・質問）委員

資料2の10ページの「高齢者が地域で暮らし続けられるための支援の推進」についてですが、令和6年度と7年度の比較を見ると221.5%となっています。これは令和7年度においては、特に力を入れて取り組むということと捉えていいのでしょうか。金額的にも非常に大きい額になっているかと思います。

あと同じことが言えるのが、16ページの水道のところでも「上下水道事業の健全かつ持続可能な経営と理解促進のための情報発信」のところが、パーセンテージが前年度に比べると超過となっていて、どのようにとらえたらいいのか疑問です。

予算が特に大きく増えていることの要因と、前のページにある重点課題、おそらく連動していると思われるがどうなのか、大規模な事業を計画されているのかお伺いしたいです。

（進行）会長

はい、それでは御回答をお願いします。

（回答）福祉部長代理

それではまず10ページのお話からさせていただきます。10ページの上から4番目「高齢者が地域で暮らし続けられるための支援の推進」というところの事業費が令和7年度と前年度を比べた時にかなり前年度より高くなっている、221.5%になっているという点でございますが、これは、令和7年度から重層的支援体制整備事業を開始することに伴い、高齢者関連予算を介護保険特別会計から一般会計へ移管したことによるものです。国において重層的支援体制整備事業は一般会計において実施するということになっておりますので、その関係で予算が大きく変わったということになります。

（進行）会長

9ページの方の「重層的支援体制整備を始めます」ということに連動しているということですね。それでは16ページの上下水道に関する部分の御回答をお願いします。

（回答）上下水道部長

16ページの上下水道政策の部分で超過となっているところですが、こちらは下水道事業で、計画を立てる等の予算が大きく増えたことで事業費が増え、超過という形になっています。したがって、毎年この額がかかるのではなく、単発でこの年度だけ事業費がかかるということです。

（意見・質問）委員

予算で何をするのか言葉で説明していただけると納得しやすいです。

（回答）上下水道部長

申し訳ございません。下水道の計画でアセットマネジメントやストックマネジメントといったものがございしますが、そちらの計画を策定するための予算を計上しているためです。

（意見・質問）委員

私も予算についてお伺いしたいです。先ほど重層に関しては今年度から制度整備したので来年度にお金がかかるという話がありましたが、7ページの「妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援体制の強化」については、おそらく昨年度から整備されていることも家庭センターが所管になるかと思います。こちらは重層よりも1年早く整備されているから、

お金をそんなに増やす必要性がないということなののでしょうか。そういう理解でよろしいのでしょうか。

（進行）会長

健康こども部の部分ですね。御回答お願いします。

（回答）副市長

健康こども部長の代理で健康づくり課長が入っておりますが、担当外でありますことから私の方からお答えさせていただきます。委員のお話しのとおり、こども家庭センターにつきましては令和6年度から本格的に実施しておりますので、令和6年度と7年度につきましては大きく予算に変動はありませんでした。先ほどの重層に関しましては、令和7年度において特別会計から一般会計へ移って始まったという部分で数字が大きく移動しております。また、重層が本格的に今年度から始まっておりますので、その分の事業費を含めて高齢者に関しては事業費が大きくなっているという理解でよろしくお願いいたします。

（意見・質問）委員

ありがとうございます。どちらも制度を作る時にお金がかかるのは当然で、その上でどちらも運営費や人的資源が必要になってくると思いますので、人の配置などを考えると毎年ある程度のお金が必要な部分もあると思います。専門職の配置などの点でも、こども家庭センターに関しては少しこの予算で大丈夫なのかという率直な疑問がありましたが、今の説明で理解しました。

（回答）副市長

おっしゃる通り、予算の面だけでなく体制という部分に関しましても、こども家庭センターを令和6年度から配置して、そこに保健師や助産師、様々な資格のある職員を配置しながら、子育ての支援を行っております。また今年度から新たに新規の事業も発生しておりますが、予算とともに体制も整備しながら実施している状況でございます。

（意見・質問）委員

ありがとうございます。もう1つ同じページの「安心して暮らせる社会保険制度の推進」ということについて質問いたします。隣のページから推測するに、おそらく国民健康保険、特に子どもの医療費助成のことだと思うのですが、それ以外の社会保険などを想定されて、あえて社会保険と書いているのか確認したいと思いました。

（進行）会長

同じ7ページの社会保険制度についてですね。御回答お願いします。

（回答）副市長

これは健康こども部門の4つ目の施策であり、保険年金課が担当している部分で、この政策の目標の一つとして設定しております。その中には医療制度の適正円滑な運営の実施、年金相談、年金の関係、経済的基盤確保の支援、また安心して医療を受けるための医療費給付事業の部分を保険年金課が担っております。当市でも令和6年度から所得制限の撤廃や医療費の助成の拡充を図っております。

（進行）会長

よろしいですか。それでは市長方針に関してでも構いませんので他の委員に方からもどうぞ御意見ををお願いします。

（意見・質問）委員

今、少子化と言われ子どもたちが少ない中ではありますが、学童の利用が非常に多くなっています。今現在、学童はかなり窮屈な状態で、子どもたちを安心して預けられる状況を作るのが難しくなることが予想されます。その中で、保護者の皆様が安心して働いていけるように、例えば「政策を構成する施策及び関連する指標の状況」の中の「活躍している若者が多いまちであると感じている人の割合」や「現在の仕事に満足している人の割合」という部分を充実させながら、学童も充実してもらえると、さらに働きやすい環境を作っていけるのかなと思います。

そのような部分で、何か産業部門の方で取組の考えがあるかお伺いしたいですし、ぜひ検討願いたいです。

（進行）会長

要望を含めてだと思いますが、学童の充実に関して、何かこの場で言えることがあればをお願いします。

（回答）副市長

先日、市長の代理として学童保育連絡協議会に出席いたしました際に要望書を頂き、3月10日付書面において市長名でその要望に対して回答を差し上げたところでございます。

その中で記載しているとおり、子どもの数は減ってきていますが、共働き世帯も増えてきておりますので、子どもの居場所のニーズが高くなっているのが現状でございます。その中で、学童と放課後子ども教室という形で子どもの居場所を設置し、保護者の皆様の御協力で運営していただいているところもございます。

市といたしましても、子どもの居場所作りは非常に課題であると捉えておりますので、今頂きました要望を受け止めながら、子どもの居場所作りの取組は今後継続して取り組んでまいりたいと思います。

また、形が具体化してきた際には、しっかりと協議会の皆様にもお伝えしながら取り組んでいきたいと考えております。

（進行）会長

よろしいですか。はいどうぞ。

（意見・質問）委員

「今の仕事に満足している人の割合」という数値もありますので、例えば滝沢市で働く環境について、今の予算を活用しながら、さらに働きやすいまちづくりを進めていけばいいのではないかと感じています。

滝沢市で育ち、そのまま滝沢市で働き続けられる環境が整えば、市内で暮らし続けたいと思う人が増え、結果として地域全体がより働きやすくなるのではないのでしょうか。

また、移住についても同様で、「滝沢市で働きたい」「滝沢市に住みたい」と思ってもらえるような魅力的な取り組みが必要だと思います。

例えば、地域の魅力を活かした取り組みとして、チャグチャグ馬コのような、このような地域らしい活動をもっと発信しながら、滝沢市に他の地域から人を呼び込み、人口が増えるような流れを作ること、滝沢市がさらに魅力的な街になることを期待しています。

（進行）会長

はい、市長どうぞ。

（回答）市長

ありがとうございます。滝沢市で働きやすい環境を整えることは、まちづくりの重要な課題であると認識しております。そのため、現在、滝沢市の将来を見据えた計画を進めているところです。

まず、令和7年度に岩手県立大学に隣接する県の牧草地約15ヘクタールの購入を目指し、県と交渉しております。この土地を活用し、さらなる企業誘致や雇用の場の創出を目指しています。

現在、この地域にはイノベーションセンターがあり、これまでにIT関連企業29社が進出しております。今後も、岩手県立大学の情報処理の学部生が地元で働ける環境を整え、東京で活躍している卒業生とも連携を図りながら、UターンやIターンがしやすい仕組みを整備していきたいと考えています。

また、滝沢市内には多くの企業が立地しており、これらの企業と岩手県立大学や盛岡大学を結びつけることで、若者の地元定住を促進していきます。特に、盛岡大学では70%以上の学生が県内に就職しており、このような実績をさらに活かしながら、地元企業との連携を強化していきたいと考えています。

さらに、滝沢市の魅力を発信する取り組みについても重要であると考えています。例えば、チャグチャグ馬コのような地域独自の文化や伝統を活用し、他地域からの移住や観光の促進を図ることが必要です。このような取組を通じて、「滝沢市で働きたい」「滝沢市に住みたい」と思ってもらえる魅力的なまちづくりを推進してまいります。

先日、秋田県から岩手県内に初めて進出される伊徳株式会社様の地鎮祭に参加してまいりました。同社は今後100人の雇用を目指しておりますので、滝沢市民を積極的に採用していただけるよう、引き続き働きかけてまいりたいと考えています。

これらの取り組みを通じて、滝沢市で働き、暮らし続けたいと感じてもらえるような環境づくりを進めてまいります。

（進行）会長

はい、よろしいですか。上下水道部の方から先ほどの発言に関して訂正の発言があるとのことですのでお願いします。

（回答）上下水道部長

先ほどの資料2の16ページの上下水道事業が3億を超えている額となっている件について訂正の御発言をさせていただきます。3億を超えている理由は、流域下水道に支払っている維持管理負担金が3億という額でございました。

上下水道部は令和5年度までは下水道課と水道総務課と水道整備課のように分かれていたのですが、令和6年度から下水道課分割され、今の経営課と施設課に吸収統合されまし

た。その組織再編に伴い、旧下水道課が所管していた流域下水道事業が現経営課に引き継がれたため、経営課の予算額が増加したものです。

（回答）市長

今の上下水道部に関する件は、組織の見直しをした結果となっています。

なお、滝沢市での水道の供給が始まって50周年を迎えました。滝沢市の水道は、岩手山に由来する地下水を利用することで、県内でも珍しく、水源の約99%を地下水で水道を供給しております。このようなことをしっかりとアピールすることが、滝沢市の自然が豊かであり、そして岩手山の恩恵のもとに生活しているということを知ってもらうことにつながると思うので、その点も踏まえ、事業を組ませていただいているということを補足させていただきます。

（進行）会長

はい、ありがとうございます。それでは、他にありますでしょうか。

（意見・質問）委員

6ページ目一番下の3（2）のところですが、滝沢市で5歳児健診を実施していただけるということで、非常にありがたく思っております。これまでは3歳児健診の次は小学校に入る前の就学時健診しかなかったのですが、就学時健診では問題が発覚しても遅いということもありました。例えば、3歳児健診までに見つけにくい精神発達の状況や、言語障がいの有無、社会性の発達などが、5歳児になると分かるようになってきます。その時点で早めにその子の特性が分かれば、それに応じた就学指導も可能になりますし、それに応じた家庭への支援も考えられます。同時に、地域の方々にもそのような子どもたちがいることを知っていただくことで、地域からのフォローもしていただけるのではないかと思います。

この5歳児健診を実施するにあたっては、その健診結果がより効果的に運用され、切れ目のない支援につながるように子どもが居る家庭だけでなく、地域や保育施設、学校等が一体となって子どもを育てていくような政策を、力強く進めていただければありがたいと思います。

（回答）市長

5歳児健診は、全国の自治体における実施率が未だ14パーセント程度に留まっておりますが、この度、国からの予算措置が確実となったことを受け、本市においても本格的に取り組んでまいります。

この健診を、委員から御指摘のあった心身の発達等の早期発見につなげるとともに、関係機関と緊密に連携し、一人ひとりの子どもの特性に合った切れ目のない支援体制を構築してまいります。特に、保育園と小学校が連携して子どもたちの情報を共有し、小学校への円滑な移行を促すことで、入学後の不安を解消できるよう努めます。

本市は子どもの数が多いという特徴がございます。だからこそ、この切れ目のない支援は大変重要であり、今後も継続して力を入れて取り組んでまいります。

（進行）会長

よろしいですか。それではどうぞその他要望のようなことも含めてで結構ですのでお願いいたします。

（意見・質問）委員

婦人会ではよく「昔はこんなことをやったよね」と話すことがあります。ただ、今はそれができないことも多いです。その理由の一つは、参加者が少なくなっていており、以前ほどの活気がなくなっているのが原因です。

そんな中でも、リカレント教育の取組を支援していただいております、今年も大いに期待しています。ただ、活動を進めるうえで一番の課題となっているのは、情報の周知が遅れることです。たとえば、そのような取組があったことを後で知るのではなく、もっと早い段階で情報を共有していただけると助かります。婦人会の中でも情報を周知し、昔の活動を学び直したり、時代に合った新しい学び方を取り入れたりするきっかけにしていきたいと思います。

年齢に関係なく、50代、60代、70代でも学び直しができるということを広く伝え、そうした取り組みを通じて、地域全体を盛り上げていきたいと考えています。

今後とも、情報をたくさん提供していただき、共に取り組んでいければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（進行）会長

市長回答をお願いします。

（回答）市長

リカレント教育の今年度の年間計画はほぼ決定しており、間もなく皆さまのもとに御案内が届くかと思います。昨年度のリカレント教育で特に反響が大きかったのは「子どもの発達障がい」に関する内容でした。参加された保護者の皆さんからは、多くのコメントが寄せられ、その中には「参加してよかった」「次回も学びたい」といった感想だけでなく、多種多様な意見が書かれていたのが印象的でした。

こうした意見が「5歳児健診」につながったというのが実際のところです。この健診は、各家庭が抱える課題や子どもを育てる親御さんの悩みにいち早く対応するための取り組みとして位置付けられています。

また、リカレント教育は、50代や60代といった年代の方々が学び直しを行い、生きがいを持って充実した人生を過ごすための重要な取り組みでもあります。人生100年時代において、定年後も新たな資格を取得し、それを次の就職に生かすことができるような環境を整えることは、とても重要だと考えています。これにより、働く世代が意欲を持って活躍できる期間を延ばすことにもつながると期待しています。

今後もリカレント教育については、さまざまな形で取り組みを進めていきます。また、早めに広報・周知を行うよう努めますので、引き続きよろしくお願いいたします。

（進行）会長

他にいかがでしょうか。

（意見・質問）

令和7年度第1回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

資料2の21ページについてですが、ここに記載されている「(2) 政策に関連する指標の状況」についてお話しします。まず、「滝沢市の行政サービスが良いと感じている人の割合」は、令和5年度が36.8%。また、「市役所の仕事が信頼できると感じている人の割合」は、令和5年度が46.6%です。どちらの指標も50%を下回っている状況であり、非常に残念に思います。

参考までに、滝沢市の指定管理を受けて劇団ゆうが管理運営している「滝沢ふるさと交流館」の協議委員会が、今週24日に開催されました。その会議の中で、令和7年に実施されたアンケート結果の報告がありました。いくつかの項目がありますが、例えば「交流館の総合的な印象」については、「大変満足」が45%、「満足」が53%で、合わせて98%の方が満足しているという結果でした。また、「職員の対応」に関しては、「大変満足」が53%、「満足」が44%で、こちらも合わせて97%が満足という高い評価となっています。

これらの評価は単純に市役所の状況と比較できるものではありませんが、市役所内でも職員の意識改革や各種研修を通じた人材育成など、さまざまな取り組みが進められています。行政サービスや市役所の信頼性については、50%を超えるだけでなく、さらに高い水準を目指して取り組んでいただけることを期待しております。

（進行）会長

21ページの部分ですね。どうぞ御回答をお願いします。

（意見・質問）委員

関連事項として発言してもよろしいでしょうか。

（進行）会長

はい、どうぞ。

（意見・質問）委員

今のお話に関連してですが、今の二つの指標以外も全体的に低いなと思って私は見ております。滝沢市に限らずこのような質問では、一般的に回答は低い数字になるものなのか教えていただければと思います。

（進行）会長

低くなっている原因や要因も含めてということかと思しますので御回答をお願いします。

（回答）企画総務部長

私のほうから、今お話にあった3点について説明させていただきます。

まず、「行政サービスが良い」と感じている方の割合が50%に届いていないという点と、「市役所の仕事は信頼できる」と感じている方の割合が低いのではないか、という御指摘についてです。また、ふるさと交流館などと比較して、この数値がどうなのかという御意見も頂きました。

まず、アンケートの数字についてですが、当市では毎年1回、地域社会アンケートを実施しており、令和5年度に実施したアンケート結果を基準値としています。当初、この「行政サービスが良い」と感じている方の割合は36.8%でした。この数値を基準に、改善を目指し、令和9年度の目標として40.8%に引き上げることを掲げています。

また、「行政サービスが良い」という設問についてですが、回答者の方々が思い浮かべる行政サービスは、人によって異なる可能性があり、福祉や教育、窓口対応など、それぞれを思い浮かべながら回答すると思いますので、中々数値の向上が難しい部分もあるのではないかと考えています。

同様に、「市役所の仕事は信頼できるか」という設問についても、不特定多数の方にアンケートを郵送しているため、普段から市役所と関わりのある方と、ほとんど関わらない方では回答に差が出ることも考えられます。このように、アンケート結果や回答者の行政との関わり方により、数値に一定の難しさがあると認識しています。

しかしながら、現状に甘んじることなく、数値を改善していく必要があると考えております。そのため、全職員がより良いサービスを提供できるよう、職員研修や組織改革に取り組んでおり、本日も若手職員を含めた研修を実施しました。今後もこのような取り組みを通じて、市民の皆様に御満足いただけるサービスを提供できるよう努力してまいります。

いただいた御意見は重く受け止め、さらに取り組みを進めていきたいと考えております。

（回答）市長

行政サービスに関しましては、最近少し評価が変わってきたなと感じている部分があります。除雪です。これまでは除雪に対する厳しい御意見を多く頂いておりましたが、最近では感謝の声をいただくようになってきました。

行政サービスという区分だと、給食費の無償化や他の行政サービスを想像されているのかもしれませんが。

（進行）会長

どうぞ、他にありますか。

（意見・質問）委員

私も地域社会アンケートに回答したことがあるのですが、選択肢の選び方が非常に難しくて悩んだ記憶があります。この指標で「良い」と集計しているのはどのような回答の選択肢を選択した場合ですか。「良い」「普通」「悪い」という単純な選択肢ではなかったと思うのですが。

（進行）会長

アンケートについてですね、御回答をお願いします。

（回答）企画総務部長

こちらのアンケートの選択肢ですが、「滝沢市の行政が良いと感じますか」という設問への回答は「そう感じる」「どちらかといえばそう感じる」「どちらとも言えない」「どちらかといえば感じない」「そう感じない」「分からない」という選択肢となっています。

そのうち「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた数字が36.8%となっております。

（意見・質問）委員

部長から福祉なのか教育なのか窓口なのかどこを想定するかで回答が変わるとお話があったとおり、設問をそのように具体的なものに変えていただければ回答が変わるのだろう

と思う部分もあります。ですがこのアンケート自体同じ設問を長く続けるといったもので難しいのかなとも思います。

ただ、資料2の1ページの最後のところで「窓口の説明が分かりやすく対応が良いと感じている人の割合」が72.4%となっています。これをみると聞き方の問題で、決して市役所の対応が悪いと評価されているわけではないのではないかと思います。市役所としては、低い評価のデータだけでなく、こうした高い評価のデータもあるということを踏まえて、業務にあたっていただければと思います。

（進行）会長

どうぞ御回答願います。

（回答）企画総務部長

説明が足りないところフォローしていただきありがとうございます。そのような形で特定な部分についてはお褒めを頂いているところもございますので、その部分についてはさらに上がるよう、下がることの無いよう頑張りたいと思っております。

（意見・質問）委員

私自身は滝沢市の窓口対応がひどいとは思っておりません。継続性の観点から、同じ形式で調査を続けていくことは非常に重要だと思いますが、具体的に改善を図る際には、「何が良くないと感じられているのか」や「どこが問題とされているのか」が分からなければ、改善は難しいと考えます。

そのため、ずっと同じ形式にこだわるのではなく、どのサービスについての意見なのかが分かるような質問を追加してみることや、自由記述欄に書かれている不満点と関連付けるなどの工夫が必要だと思います。そうした工夫が改善につながるのではないのでしょうか。

（進行）会長

はい、ありがとうございます。他に御意見ありますでしょうか。

（意見・質問）委員

市長が様々な方針の説明に尽力されているという点について、私もその思いを理解しているつもりですし、行政の皆さんと日々関わる中で、市長の熱意を感じることはあります。ただ、市長のその熱意と、現場を担う職員の方々の対応との間に、若干のかい離があるように感じられる場面もあります。こうしたかい離が見えると、市民からの評価が徐々に下がってしまうのではないかと懸念しています。

市長の話を伺うと非常に高いレベルでの理念や方針が示されていると感じるのですが、実際の現場対応では必ずしもその理念が反映されていないと感じることがあります。そのため、現場で疑問を感じるような事例が時折見受けられるのも事実です。こうしたことが積み重なり、行政に対する不信感や不満につながっているのではないかと考えています。結果として、こうした状況が現在の評価や数字にも表れているのではないかと推測しています。

（進行）会長

市長の思い、熱意が職員に適切に伝わっているかということですね。どうぞ御回答お願いします。

（回答）市長

令和6年度にリカレント教育に取り組ませていただいた中で、保護者の皆さんからいただいた支援の必要な児童に関する御意見を非常に重く受け止め、「何ができるだろうか」と悩む中で、国が5歳児健診に対する補助を出すことが決まりました。それを受けて、いち早く本市の職員が5歳児健診の実施に手を挙げてくれたことに感謝しています。この健診については、全国でも実施率が約14%と低い中で、市の職員が即座に動いてくれた点を大変誇りに思っています。

滝沢市の第2次総合計画が始まった当初から、職員と共に「何を目標に進めていくか」を考えながら取り組んできたつもりです。しかし、現在の行政運営は、物価上昇や人件費の増加といった課題もあり、とても難しい状況にあります。私が指示を出しても、なかなか思うとおりに進まないことがあるのも事実です。

特にこれからの時代では、人口減少や税収の伸び悩みが予想されます。そのような中でも、住民サービスを低下させるわけにはいきません。だからこそ、新しい事業を1つ作る際には、別の事業を1つ削るくらいの覚悟で取り組まなければ、住民サービスの充実は難しくなると感じています。職員にとっても厳しい判断を迫られる場面があるかもしれませんが、これからの市民生活や市の将来を見据えた上で、共に考え、行動していきたいと思っています。

事業を考える際には、5年後、10年後、15年後といった将来を見据えながら取り組む必要があります。ただ毎年新しい事業を増やすだけではなく、既存の事業を見直し、必要に応じて統合するなどして、事業の充実度を高めることが大切です。また、削減せざるを得ない部分が出てくる場合でも、それ以上に住民の皆さんに安心していただけるような事業を計画することが重要だと思います。

単に事業を増やすのではなく、既存事業の統合など効率化を図らなければ、今後の行政運営は成り立ちません。御指摘のあった職員との意識の差につきましても、真摯に受け止め、改善に努めてまいります。

（進行）会長

よろしいですか。他にいかがでしょうか。

（回答）副市長

本日の会議冒頭で、委員から「当該年度に力を入れて取り組むことと評価のことについて」の御質問がありましたが、少し明確さに欠ける回答だったかと思いますので、改めて補足させていただきます。

次年度の政策方針や施策方針を決定する時期と、前年度の評価を行う時期についてですが、現状では政策・施策を立てる時期と評価の時期にずれがあるのは事実です。現在はまさに令和6年度の評価を行う時期であります。

当該年度の事業実施状況等を踏まえ、課題として浮かび上がった内容を整理しつつ、各政策・施策において「4年間で取り組むべき事項」を設定しています。そして、その中から当該年度、具体的には令和7年度に重点的に取り組むべき課題を整理し、対応を進めて

令和7年度第1回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

おります。また、課題として浮上した内容も含め、令和7年度の重点課題として取り組むべきものとして整理させていただいておりました。

以上、説明が不十分だった点を補足させていただきました。

（進行）会長

何かありましたら、どうぞ。

（意見・質問）委員

補足説明ありがとうございます。市長方針が令和6年10月、政策方針が同年11月、そして課長方針も同時期に作成されていると認識しております。

そのため作成時期との関係で、政策評価の進捗状況の数値が記載されている箇所と、そうでない箇所があると解釈して資料を拝見しておりましたが、数値の根拠が分からなかったもので、この解釈について、より詳細な背景をお伺いしたく質問させていただいた次第です。

（進行）会長

ありがとうございます。よろしいですか。確かに年度途中で次年度の重点課題を決めざるを得ませんからね。

他にありますか。ございませんようですので議事「令和7年度市長方針及び各政策方針について」を終了いたします。本日の予定されておりました議事は全て終了しましたので進行を事務局へお返しします。

（進行）事務局

丸山会長、議事の進行ありがとうございました。それでは、最後に「その他」の項目について、委員の皆様から何か御意見や御質問はございますか。

特にないようですので、事務局から1点御連絡いたします。お手元の資料の右上に「その他」と記載されている「令和7年度滝沢市総合計画審議会 開催予定」を御覧ください。令和7年度の審議会は、本日開催分と、11月から12月頃を目途にもう1回、計2回の開催を予定しております。

議事内容については、「令和6年度市長方針および各施策方針の評価」についての報告・説明を行う予定です。また、令和6年度の「滝沢地域社会報告書」についても、併せて報告させていただきます。詳細な日程が決まり次第、委員の皆様へ改めて御案内を送付いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和7年度第1回滝沢市総合計画審議会を閉会いたします。本日は長時間にわたり御審議いただき、誠にありがとうございました。